

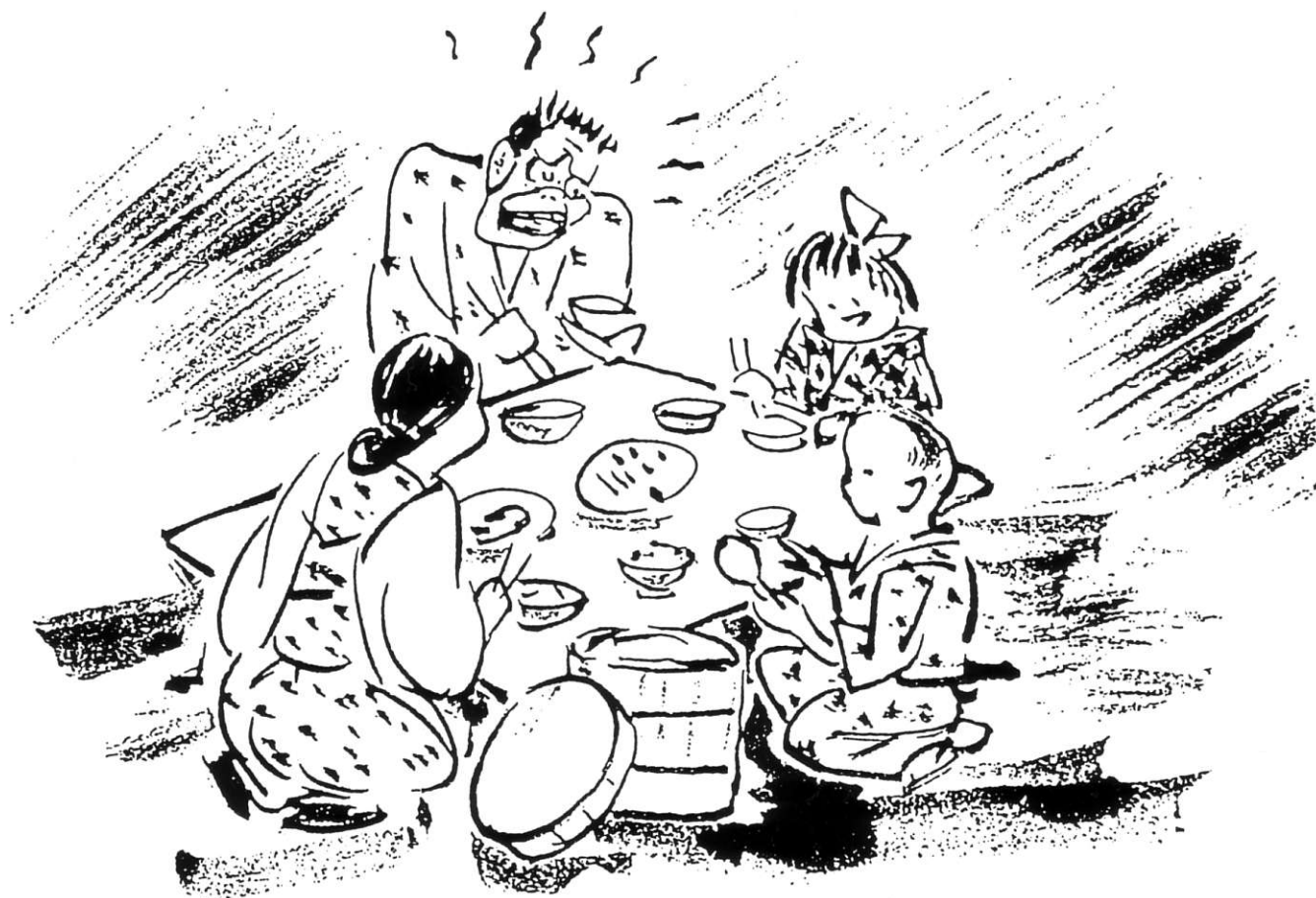
資料館だより

第 14 号

平成 3 年 3 月 31 日

編集・発行 武蔵村山市立歴史民俗資料館

武蔵村山市本町5-21-1 TEL 0425(60)6620



はち
お鉢たたくじゃねえ、狐が出んど

(「武蔵村山の昔がたり」より)

前書き

今回の資料館だよりはには二編の貴重な原稿が寄せられました。寺町勲氏からは、昨年、教育委員会が発行した「武蔵村山の昔がたり」に収録されている当地の方言についての論稿をお寄せいただきました。当市においてはこの分野の研究は未着手の状態であり、氏の分析は「郷土の方言」研究の先鞭となるものであります。また神座康夫氏からは氏の指導されている稲作の

体験学習についての原稿をお寄せいただきました。昔から、武蔵村山市にはわずかながら水田耕作がみられ、歴史民俗資料館でもその事例調査の必要を感じておりました。氏の体験学習の紹介が今後、水田耕作を含む農作業全体の事例調査の足掛かりになっていくものと思います。貴重な原稿をお寄せいただいた寺町、神座両氏に心より御礼申し上げます。

武蔵村山の方言

前市立第三中学校校長

寺町 勲

I はじめに

ことばは生きている。その時々の人々の生き方を反映しているからである。そして、それは共通語より方言の方が顕著である。その意味において、方言は、祖先より伝えられた貴重な財産であるといえよう。

しかし、急速な都市化やマス＝メディアの発達等によって、方言は、残念ながら消滅の一途をたどっている。そして、これは武蔵村山も例外ではない。

ここで、改めて郷土の方言に光を当ててみよう。



今では見られない水田での子供達の遊び(昭和40年代)

II 武蔵村山の方言の系譜

現代日本語は、本土方言と琉球方言の二つに分けられる。そして、本土方言は下表のようになる。

八丈(南部伊豆諸島)方言 — 八丈方言、青ヶ島方言

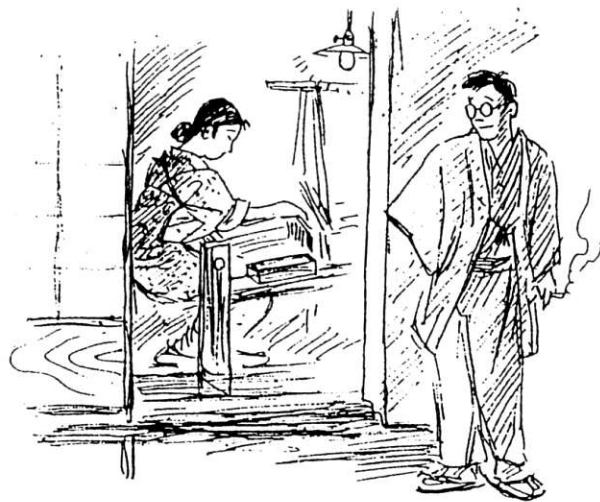
東部方言 — 北海道方言、北奥羽方言、南奥羽方言
— 関東方言、越後方言
— 東海・東山道方言、北・中部伊豆諸島方言

西部方言 — 北陸方言、近畿方言
— 北四国方言、南四国方言
— 中国方言、雲伯方言

九州方言 — 東九州(豊日)方言
— 西九州(肥筑)方言
— 南九州(薩隅)方言

(東京都教育委員会編「東京都のことば」による)

武蔵村山の方言は、上表の関東方言に属する多摩ことばに含まれる。また、同じく関東方言を土台とした江戸語から発展形成された東京方言の影響を受けていることも否めない。



夜遊び

なお、武蔵村山市内に限定された方言は極めて少ない。周辺の地域をも含めた広域に通用するものが多い。

Ⅲ 武蔵村山の方言の特徴

1 語法について

(1) ベえベえことばである。

関東の「ベえベえことば」地域に含まれ、語尾に「ベエ」「ダンベエ」等をつける。「涼むベエ」「いたんベエ」「裏んどこダンベエ」などがそうである。また、「ぶゆベエだぁから」（ぶゆばかりだから）というように、途中に使う「ばかり」を表現することもある。

(2) よう・なあよ・わ・やをつける

語尾に「ヨウ」「ナアヨ」「ワ」「ヤ」を使うことが多い。「穴を掘ってヨウ」「それがナアヨ」「すんだぁワ」「あん（ある）かヤ」となる。

(3) 助詞を省略する

助詞を省略することが多い。「花（ヲ）かけんと」「祭ってあん（ノ）で」「製糸場（ニ）行つての帰り」などの（ ）内は、省略された助詞である。

2 音韻について

(1) 短いアを入れる

母音アの次に短いアを入れることが多い。「あつたァだァと」「やったァのは」「まァた」「なァよ」などがそうである。特に「た」の次に入れることが多い。

(2) 促音ツを多用する

促音ツを用いることが多い。「桜街道」は「さくらッけえどう」、「西側」は「にしッかあ」、「道の縁」は「みちッぶち」になる。

(3) ツを多用する

音節を短縮してツにしたり、他の音をツに変えることが多い。「……と……」は「……ツって」になり、「ぶつたぎる」は「ツつたぎる」になる。

(4) の・る・れ・らがンになる。

第2音節以下の「の・る・れ・ら」の音をンと発音することが多い。「雲の中」は「雲ン中」、「やる」は「ヤン」、「ある」は「あん」、「くれないか」は「くんねえか」、「しれない」は「しんねえ」、「やらなかった」は「ヤンなかった」となる。

(5) わがアになる

第2音節以下のわ（は）をアと発音することが多い。「実は」は「じつア」、「中は」は「なかア」、「川」は「かア」、「変わる」は「かアる」、「合わせた」は「あアせた」、「北側」は「きたっかア」になる。

(6) エ・イ・ンを入れる。



祭礼には方言があふれていた（昭和20年代）

第2音節以下に「エ・イ・ン」を入れることが多い。「俺等」は「おれエら」、「……してた」は「……してエた」、「蛭」は「ひイる」、「埋まって」は「うんまって」、「生まれる」は「うんまれる」、「かご屋」は「カンごや」となる。

(7) 母音アがエ、イがエになる

前音節の母音アがエになり、それに続くイがエになることが多い。「だいだらぼっち」は「デエだらぼっち」、「でっかい」は「でっケエ」、「入って」は「ヘエって」、「……みたい」は「……みテエ」、「街道」は「ケエどう」、「大事」は「デエジ」となる。

(8) 母音オがエになる

第2音節以下の母音オがエになることが多い。「どこいら」は「どケえら」、「そこへ」は「そケへ」、「細い」は「ほセえ」、「白い」は「しレえ」となる。

(9) 母音エがアになる

第2音節以下の母音エがアになることが多い。「竹やぶ」は「たカやぶ」、「あれは」は「あうあ」「おれの方」は「おうあほう」となる。

(10) 母音ア・ウ・オがイになる。

第2音節以下の母音「ア・ウ・オ」がイになることが多い。「気味が」は「きみイ」、「暑い」は「あチい」、「草むしりを」は「草むしりイ」となる。

(11) 母音ウがアになる。

第2音節以下の母音ウがアになることが多い。「振舞う」は「ふるまア」、「来るよ」は「くらあ」、「あるよ」は「あうあ」となる。

(12) 母音オがア・ウとなる

第2音節以下の母音オが「ア・ウ」になることが多い。「……ことは」は「……こタあ」、「そこは」は「そかあ」、「中を」は「なかア」、「蔓を」は「つるウ」、「くずを」は「くずウ」となる。

(13) ナがアになる

第1音節の「な」が「ア」になることが多い。「なんでも」は「アんでも」、「なんという」は「アンちゅう」、「何」は「アに」、「なにしろ」は「アンしろ」となる。

(14) イとエの混同がみられる

イとエの区別がかなりあいまいである。「エら」(たくさん)と「イら」、「でエじん」(金持)と「でイじん」、「けエこ」(蚕)と「けイこ」、「エンきょ」(隠居)と「インきょ」、「エばる」(威張る)と「イばる」などの混用がそうである。

(15) ぞがどになる

語尾の「ぞ」が「ド」になることが多い。「あずきばばあが出んど」となる。

3 アクセントやイントネーションについて

アクセントとイントネーションは、方言の味を決める要素の一つである。しかし、それを文字で表現するのは極めて困難である。そこで、詳細は録音作業に任せることにして、ここでは、アクセントの事例を紹介するにとどめたい。

その1は「おやこ」である。「お」にアクセントをつけると「親子」を意味し、「や」にアクセントをつけると「親類」を表現している。その2は「中村」である。一般には「か」にアクセントをつけるが、地名としての「中村」では「な」にアクセントをつける。

4 用語について

方言の味は、その地域独特の用語によっても醸し出される。しかし、その語数は大変多いので、特に目立つものを紹介するにとどめたい。

(1) 名詞にコをつける

名詞にコをつけることが多い。「あまっコ」(女の子)、「かれっコ」(枯枝)、「かどっコ」(角)、「あねっコ」(姉)、「あなっコ」(穴)などである。

(2) 動詞にオをつける

動詞の頭にオをつけて意味を強めることが多い。「オっころぶ」(転ぶ)、「オっちぬ」(死ぬ)、「オっぴらく」(開く)、「オっぺす」(押す)などがそうである。



おしら講の日待ち

(3) 地名等の呼び方

地名等にも独特の呼び方がある。鍛冶ヶ谷戸(かじげえと)、神明ヶ谷戸(しめげえと)、後ヶ谷戸(うしろげえと)、三本榎(さんぼえのき)、お神明様(おしめんさま)、七所様(しっちょさま)などである。

(4) その他の用語

チットンベエ(少し)、寄ッチャクナッテ(寄り集まって)、ヤバネエカ(いっしょに行かないか)、ホンノメル(けとぼして埋める)、コタッコイ(濃い)、ソラッパナシ(無駄話)、フンバサミ(分れ道)、ビッキュウ(銭)、スイフロ(ふろ)、ボク(枯れた木の幹)、コエマ(たい肥)、アカビラ(せみ)、カップ(みずかまきり)、ウシグルマ(カブトムシ)、ヤッコイ(やわらかい)、マッカチコ(真紅)その他

以上、武蔵村山の方言について述べてみたが、まだ方言という宝庫の入口に立ったに過ぎない。これから中絶することなく、その奥行を確かめねばなるまい。

しかし、方言の調査には大変な労力を要する。そして、その結果を文字で表現することは、さらに困難であるが、「武蔵村山の昔がたり」発刊を機に、あえて方言を取り上げた次第である。



方言はお年寄だけのものになりつつある

米作り体験学習のあらまし

前市立第三小学校校長

神座 康夫

I はじめに

狭山丘陵の南麓では、古くから、湧水を利用して、稲作が行われてきた。

武蔵村山市でも、昭和 25 年の調査資料でみると、16 町歩の水田があり、300 石余の米を収穫していたことがわかる。

何れの水田も、別図のように、谷戸が、細長く入り込んだ地形の谷間であって、種かな自然の湧き水にたよっていた。

従って、日照りが続くと、灌水に窮することもあり、その備えとして、番太池や赤坂池が作られた。

社会情勢の変化に伴い、水田は減少の一途をたどる。

中藤田んぼのように、埋めたてられて、住宅地として分譲されたり、横田の田んぼのように、グラウンドや

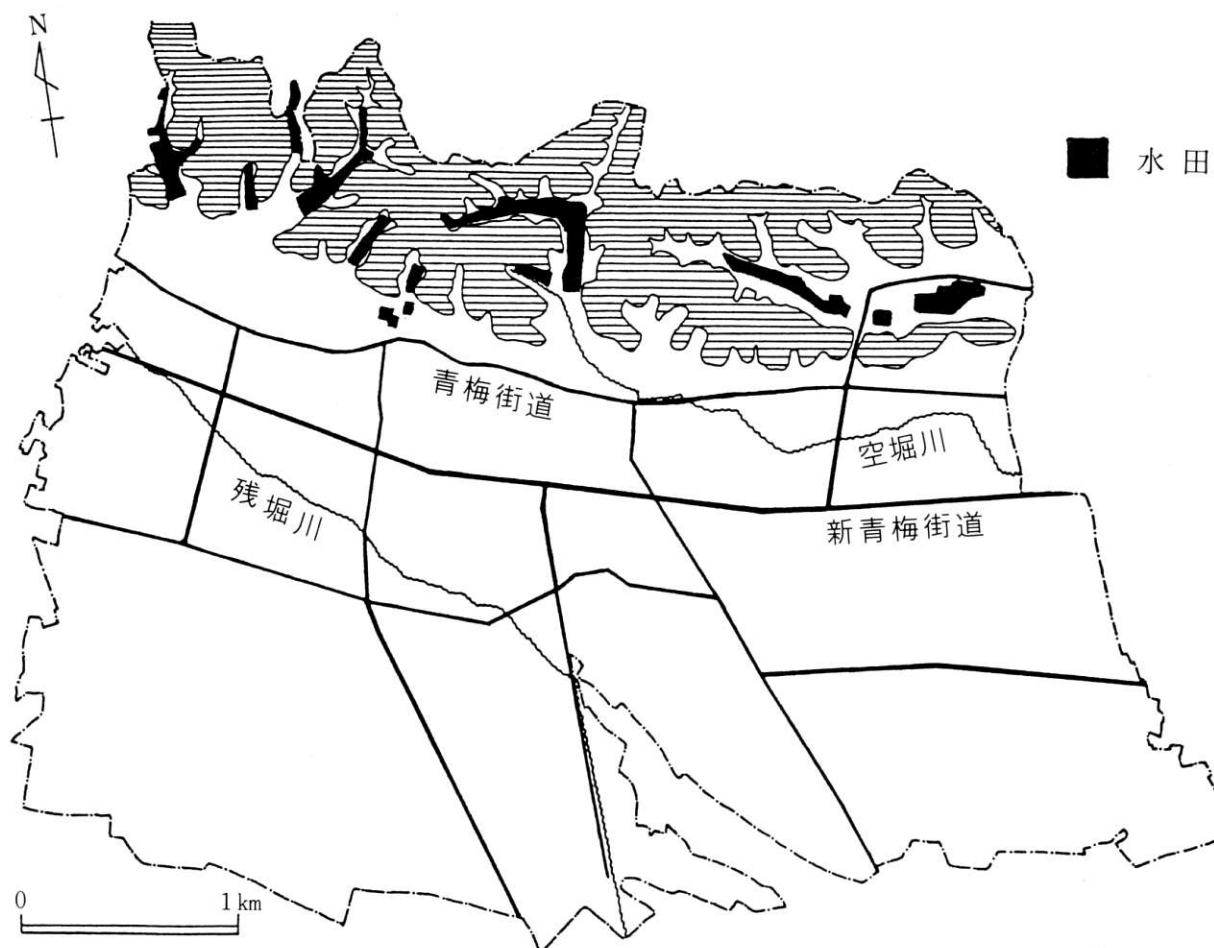
歴史民俗資料館等に利用されているところもある。

現在でも、水田として利用されているのは、入り、谷ツ、後ヶ谷戸のほんの一部、それに、野山北公園

にある、約 1200 m^2 程の稲作体験学習用の水田ぐらいのものになってしまった。



中藤田んぼの田植え（昭和 40 年代）



昭和 41 年当時の武蔵村山の水田

II 稲作体験学習

市で保有する水田を、子供達の稲作体験学習に役立てようとして、昭和53年度から始められ、今年で13年目を数える。

各学校、5年生が、理科や社会科の学習との関連もあって、米作りの体験をしてきた。

田植—草とり—稲刈り—脱穀—餅つきと、一連の流れの中で、汗や泥にまみれながら、様々な体験ができるように工夫されている。

いつ頃、どのような手順でそれが行われて来たか、その前後で、どのような下ごしらえがなされるか等について紹介すると、

1. 苗代

4月中旬より、苗代の準備が始まる。

種籾選び、馬鹿苗病予防の消毒等をし、たっぷり水に漬けてふくらんだ種籾を、田植から逆算して、45日位前に蒔く。

田に植えるまでの1か月半、毎日、芽の出具合や、苗の顔色をみながら、水の調節をしたり、予防措置として、田植までに、2回程、いもち病予防の消毒しておく。

2. 田おこし

稲作で大切なことの一つは、深く耕すことである。

地形の関係もあり、大型の耕運機が入れられないこともあって、長い柄の三本ぐわで、できるだけ深く耕す方法で田おこしをしている。

約1反2畝の水田をこの方法で耕すのは大変な作業で、本年は、市内の農友会の皆様の御支援をいただき大いに助かった。

畦は、じょうぶで、子供達も歩き易いようにと、松材の足場板を杭で止めて作る。

3. 代かき

田おこしをして4~5日、たっぷりと水を含ませて、やわらかくなった水田に、小型の耕運機を入れて、よくかきまぜ、更にトンボをかけて平らにし、浮いてきた稲の切株を土中に押し込んで田植に備える。

4. 苗とり

田植の前日、抜きとって、わらで束ね、根の泥を洗いおとして、日影におく。

5. 田植

毎年6月中旬に行う。

植える位置の目印が付いた縄を張って、4~5本ず



学習田での田植の様子



学習田での稲刈りの様子

つ植えていく。真上から垂直に植えると、後で苗が浮き上って、補植が大変になる。横から持って来る要領で植えさせる。

水はけの良い水田では、2~3本ずつ植えても、分けつが多いので、ちょうどよくなるが、湧き水を利用した湿田では、4~5本でも少ないくらいである。

6. 除草、消毒

直ぐ下に市のつり堀があり、除草剤は一切使用せず、昔ながらの、手作業による田の草とりを行っている。

炎暑の夏の草とりは大変な作業である。

消毒は、主に、イモチ病発生の時行っている。

これが発生すると、2~3日で広がって、全滅に近い被害となるので、発生次第、時を移さず行う。

水道の水を下からタンクに詰めて一輪車で運びあげ、約1000倍にうすめた薬をまく。

7. 防鳥ネットがけ

出穂してから1週間から10日位で防鳥ネットをかける。150坪用のネットを3枚、周囲に立てた杭に綱

を張り、その上からかける。

8. 稲刈り

のこぎり鎌を用いて、馴れない手つきで刈り取る。

刈り取ったものを、わらで束ねる作業が子供達にとっては、大変難かしいようである。

束ねた稲たばは、稲架にかけて、十分に乾燥させる。

9. 脱穀

校庭の一隅にシートを敷き、動力脱穀機を据えつけて脱穀をする。

はじめは、こわごわとやっている子も、2回め、3回めになると、次第に要領を覚えてくる。

脱穀する稲束や脱穀機の搬送、据付け、後始末と、多くの人手を借りながら、ほこりにまみれての作業である。

このようにして収穫された「もみ」は、精米所に託して精白される。

白米になると、もみの重さの3~4割減となる。

III むすび

一連の体験は、どれも、子供達にとっては、生まれて初めての体験であり、それが、生涯に一度の貴重な体験になると思われる。

はじめ、泥の田に、素足でふみ込むのは、相当の抵抗感があるようであるが、始まってしまうと、すぐに馴れて、賑々しく作業をしている。

日本の「農業の原点」を、体験を通して理解することが、今後、何かと役にたつものと信ずる。

このような、貴重な体験学習の細部にわたる段取りをし、学習を陰で支えていただいているのは、比留間久作氏であることを紹介し、感謝の意を表したい。

参 考

武蔵村山での水田耕作の手順の一例

1 荒起こし

5月初旬に水田の荒起こしを行う。この頃は畑仕事や養蚕も忙しいので、水田の仕事はほとんど雨降りの時に行った。荒起こしの後、畔の整備を行う。苗代への種まきもこの頃までに行う。

2 代かき

水田の土をさらに細かくするため耕す。この時には既に水を張っておく。エブリという道具を用いて土を平らにする。その後、古株を土の中に押し込む作業を行う。

3 施肥

肥料を水田にまく。ここまでの作業はほとんど雨降りの時に行う。

4 田植え

6月中旬から下旬にかけて田植えをする。家族総出の仕事である。

5 苗ほごし

田植え後、1週間から10日後に苗が定着するように手入れをする。

6 追肥

苗ほごしの後、肥料をまく。

7 草取り

7月中旬頃から稲の刈取りまでの間に3~4回の草取りを行う。また、稲に混じって生える稗も抜き取る。

8 稲刈り

10月末から11月初旬にかけて刈り取る。刈り取った稲は束にして干す。

9 脱穀

稲刈り後、1週間から10日後に脱穀を行う。武蔵村山では水田1反当たり7俵程度の収穫が普通であった。



中藤田んぼの様子 (昭和33年)

寄贈資料（平成元年4月1日～平成2年9月30日）

次の方々より貴重な資料を御寄贈いただきました。ありがとうございました。

区分 番号	寄贈者		寄贈品		区分 番号	寄贈者		寄贈品	
	氏名	住所	品名	数量		氏名	住所	品名	数量
1	高橋 正男	中藤3-75	籾がら取り機	1点	12	榎本 光好	本町4-19-1	エブリ	2点
2	田代 照一	三ツ木2-5-7	二重まわし	1点				くるり棒 他	4点
			外とう	1点	13	郷土の会		屋敷神調査表	1式
3	神山 春雄	中央2-6-1	書籍	1点	14	清水 タミ	学園1-68-2	ミシン	1点
4	雨宮 繁常	三ツ木3-49-1	唐箕	1点	15	小川 友一	岸1-45-3	臼	1点
			脱穀機 他	2点	16	乙幡弥須夫	中央4-51-1	わら打ち槌	1点
5	井上千代吉	瑞穂町箱根ヶ崎	押し切り	2点				掛軸	2点
6	村山 美春	瑞穂町箱根ヶ崎	縄文土器	3箱				和ダンス 他	14点
7	内野 喜助	中藤4-38-1	唐箕	1点	17	増田 ムメ	緑が丘1460-48-304	華台	1点
			マンガドオン	2点				お盆	1点
			滑車 他	4点				抹茶茶碗	7点
8	清水 昭三	本町1-57-6	背負梯子	1点				香炉	1点
			天秤	1点				花瓶	1点
			駒下駄 他	5点				掛軸（絵）	9点
9	川島 一二	中藤2-25-5	薬用天秤	1点				掛軸（書）	2点
10	内野 良明	三ツ木5-6-8	唐箕	1点				小壺	1点
			くるり棒 他	5点				組みひも 他	17点
11	高山 定雄	三ツ木3-47-1	出征時のぼり	1点	18	新藤 茂	本町3-31-1	関東大震災写真	19点

資料館利用状況（平成元年4月1日～平成2年3月31日）

(1) 利用状況

(2) 参考（市外利用者の状況）

区分 月別	開館 日数	利用者数 人	市内		市外		区分 月別	市外 利用者数 人	多摩地区		23区		都外他	
			人数	割合	人数	割合			人数	割合	人数	割合	人数	割合
H1. 4	日 24	1,305	624	47.8	681	52.2	H1. 4	681	413	60.6	135	19.8	133	19.5
	5	918	410	44.7	508	55.3		508	320	63.0	85	16.7	103	20.3
	6	903	393	43.5	510	56.5		510	303	59.4	131	25.7	76	14.9
	7	1,273	535	42.0	738	58.0		738	368	49.9	152	20.6	218	29.5
	8	1,950	1,056	54.2	894	45.8		894	538	60.2	181	20.2	175	19.6
	9	758	361	47.6	397	52.4		397	234	58.9	69	17.4	94	23.7
	10	1,138	510	44.8	628	55.2		628	417	66.4	109	17.4	102	16.2
	11	1,037	581	56.0	456	44.0		456	321	70.4	43	9.4	92	20.2
	12	504	269	53.4	235	46.6		235	114	48.5	57	24.3	64	27.2
H2. 1	23	694	468	67.4	226	32.6	H2. 1	226	140	61.9	41	18.1	45	19.9
	2	738	476	64.5	262	35.5		262	159	60.7	43	16.4	60	22.9
	3	1,247	747	59.9	500	40.1		500	311	62.2	89	17.8	100	20.0
合計	280	12,465	6,430	51.6	6,035	48.4	合計	6,035	3,638	60.3	1,135	18.8	1,262	20.9